

**創立
50周年**

第3航空団 修理隊

「BEST」な部隊

ベストな部隊、最高の部隊を作り上げるために、
皆それぞれがそれぞれにベスト、最善を尽くせ!

Bright

【華々しい、輝かしい】



修理隊50周年を記念した人文字

第3航空団修理隊は、第3航空団第3整備補給群隷下の2番目の部隊として、初代隊長 甲斐省吾3佐のもと昭和33年5月に第3野整備隊として小牧基地において発足。当時の隊は、本部、航空機整備小隊、工作小隊、エンジン小隊のほか、定期検査小隊を含む定員334名の大所帯だったが、昭和34年11月の改編により、定期検査小隊が検査隊として独立。野整備隊も修理隊に改称。

昭和53年3月、第3航空団は、三沢に移動するとともに、昭和46年12月に八戸から移動していた第81航空隊と融合。その際、第3航空団修理隊は、第81航空隊修理隊からの精鋭を迎え入れ、現在の部隊の礎が築きあげられた。

その後、修理隊は、F-86、F-1、F-4そしてF-2といった第一線戦闘機の支援整備を任務として発展を継続し、現在は第30代隊長 高橋3佐以下189名の隊員により、F-2のマザーウイングたる第3航空団の整備の中核として歩みを続けている。

Energetic

【元気な、効果的な】



工作小隊救装分隊作業風景

パラシュートの効果的なたたみ方。それは、万一の時に効果的に開くように心を込めて一生懸命たたむこと。



修理隊の「猿人まん」

ひとつひとつ隊員が丁寧に手作りしてあるおみこし。平成20年三沢まつり併催三沢国際サマーフェスティバル2008「世界はひとつ祭りであう心と心」みこしin MISAWAに参加し、総合の部で審査委員長賞、新作の部で最優秀賞を受賞。



航空機の心臓が常に元気であるように最新で細心の修理を行う

Strong

【強い、熱心な】



徒手格闘

敢闘心をつくること。耐えることを学ぶ事。それは自分を護ることにもつながる。



妥協なんて言葉は我々の辞書にはない。強い絆で繋がっている隊員たち。一分の疑いも迷いも感じさせない仕上げをする修理隊の各小隊・分隊・班。修理隊あつての飛行安全。

Technical

【技術的な、専門的な】



工作小隊の手にかかるF-4

この塗装は50周年記念塗装。航空祭でお披露目



整備小隊の手にかかるT-4

油圧も計器も電機もそれぞれの分隊が担任



エンジン小隊の手にかかるF-2

21,000個の部品をバラバラにして故障ヶ所を分析



9月7日に行われた『08三沢基地航空祭』では、修理隊工作小隊がペイントしたF-4は「黒ファントム」と呼ばれ大注目。航空祭当日のばつとしない天気の中、黒の機体に黄色のラインの「黒ファントム」は目立っていた。今年の目玉とも言われ、秋以降の各地の航空祭でも見ることが出来る。

第3航空団整備補給群修理隊

航空機の円滑な飛行訓練は、整備補給群の検査隊、装備隊そして修理隊などの隊員達の日々心を込めた整備によって実施されているが、普段はあまり整備員たちは日の目を見ない。そこで今回は、8コ航空団の中でも編成単位部隊員が一番多く、今年創立50周年を迎えた第3航空団整備補給群修理隊取材した。

T-4の他、高度にシステム化された最新鋭のF-2と最も整備性の悪いF-4の老朽化した機体を支えるために整備をしている修理隊。円滑な飛行訓練のため神経を尖らせて計画整備や計画外整備を行っていた。一方では、地域の祭りのお神輿を制作したり、記念塗装機を塗装したり…。高橋隊長の示す隊長要望事項「BEST」の意味と「絆」というものを妙に感じた1日だった。

第3航空団 修理隊の歴史

昭和33年 5月	第3野整備隊発足
昭和42年12月	F-86F整備支援開始
昭和43年 4月	F-86D整備支援終了
昭和53年 3月	三沢基地へ移動 第81航空隊整備群修理隊と融合し、F-1整備支援開始
昭和53年 6月	団バレーボール大会優勝
昭和54年 5月	団持続走大会優勝
昭和54年12月	F-86F整備支援終了
昭和56年 5月	団駅伝大会優勝
平成 1年 3月	団バレーボール大会優勝
平成 2年10月	T-4整備支援開始
平成 9年 3月	T-33整備支援終了
平成 9年 3月	F-4EJ整備支援開始
平成12年10月	F-2整備支援開始
平成13年 3月	F-1整備支援終了
平成13年10月	団綱引き大会優勝
平成17年 7月	海外訓練初参加(コーブノース・グアム)